

11月5日(水) 18時~19時

会場：国立国際医療研究センター
研修センター棟4F セミナールーム3,4

今月の話題 『糖尿病』（11月14日は世界糖尿病デー）

「糖尿病週間におけるNCGMの取り組み」(15分)

「NCGMのiPS細胞を用いた糖尿病研究」(15分)

それぞれ質疑を15分行います

話題提供者

植木 浩二郎 研究所 糖尿病研究センター長
大河内 仁志 研究所 細胞組織再生医学研究部 部長

NCGMメディアセミナーとは？

当センターが取り組む健康・医療の課題を広く共有するために開催しています。専門家からの情報収集、不明事項の確認の場、また、医療に関わる専門家がメディアの方の質問から学び、視野を広げる場とすることが目的です。質問・取材の中で必要なデータや写真等のご希望がありましたら、随時お問い合わせください。可能な範囲で対応させていただきます。

★メディアセミナー事務局(申込先)

電話 03-3202-7181 ex 2028

FAX 03-3207-1038

メール web-master@hosp.ncgm.go.jp

※セミナーに参加を希望される方は別添の申込書をFAXあるいはメールにてお送りください。



講師略歴(植木 浩二郎／うえき こうじろう)

1987年東京大学医学部卒。東京大学医学部附属病院、旧国立病院医療センター等の研修を経て東京大学医学第三内科で糖尿病の診療と研究に従事。1997年から2003年までハーバード大学ジョスリン糖尿病センターで糖尿病におけるインスリン抵抗性やインスリン分泌不全の分子メカニズムの研究に携わり、帰国後は東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科准教授を経て、2014年より同分子糖尿病科学講座特任教授、国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長を兼任している。2型糖尿病の病態・発症メカニズムについて分子レベルで研究を継続しているほか、肥満とともに生活習慣病の要因となるサルコペニアに関する研究を行っている。また、糖尿病合併症の抑制を目指した大規模臨床試験-J-DOIT3を事務局長として主導している。日本糖尿病学会においては常務理事をつとめている。

「糖尿病週間におけるNCGMの取組み」概要

全世界的な糖尿病とその合併症に苦しむ患者の激増に対して、2006年国連は「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を全会一致で採択し、従来から国際糖尿病連合(IDF)ならびに世界保健機関(WHO)が定めていた11月14日(インスリンの発見者であるフレデリック・バンチングの生誕日)を「世界糖尿病デー」として指定した。2007年以降、我が国を含む世界各国で、“Unite for Diabetes” をキャッチフレーズに、国連や空を表す「ブルー」と団結を表す「輪」を使用したシンボルマークの使用や様々な建造物をブルーでライトアップすることを通じて糖尿病に対する関心を喚起すると同時に、糖尿病抑制に向けた様々なキャンペーンが展開されている。NCGMでは、11月10日～14日の糖尿病週間において、栄養相談や運動・血糖測定の体験に加え、糖尿病やその治療のわかりやすい解説やNCGMの取組みも含めた研究の現況と将来展開をパネル・映像・機器展示などを交えて行う。11月14日には、一般の方向けに、2型糖尿病の予防法や、自身も1型糖尿病であり医師・研究者でもある小谷紀子先生(慶応大学)の講演、研究所の大河内仁志部長・霜田プロジェクトリーダーによる1型糖尿病の根治を目指した取組みを紹介する講演会を開催し、希望に満ちた情報提供をしたいと考えている。

講師略歴(大河内 仁志／おおこうち ひとし)

1986年東京大学医学部卒。東京大学医学部皮膚科に入局後、旧関東通信病院の皮膚科を経て、1990年から1993年までマイアミ大学細胞生物学教室で細胞成長因子の研究に携わる。帰国後は東京大学皮膚科助手に復職し、1995年同講師となる。2000年国立国際医療センター細胞組織再生医学研究部長に就任。皮膚の幹細胞研究とES細胞研究に従事し、新しい細胞移植療法の開発を目指している。最近では当センターのミッションの一つである糖尿病に焦点を当てたiPS細胞研究に重点をおいている。早稲田大学理工学部の客員教授と東京大学皮膚科の非常勤講師を兼任している。日本再生医療学会と日本研究皮膚科学会の評議員を務めている。

「NCGMのiPS細胞を用いた糖尿病研究」概要

iPS細胞の登場は医療に革命をもたらしたといっても過言ではない。iPS細胞を用いて難病の病態解明や創薬スクリーニングが行われ、大きな成果をあげている。9月には眼科領域でiPS細胞由来の網膜色素上皮を用いた臨床応用が開始された。本セミナーでは当研究部で現在進行中の糖尿病に関する2つのプロジェクトを紹介したい。一つは遺伝性糖尿病のMODY患者からiPS細胞を樹立して、その病態解明を目指す研究であり、もう一つはiPS細胞から膵島を分化誘導して、1型糖尿病患者に移植するというプロジェクトである。MODYは単一遺伝子異常による若年発症の糖尿病で、マウスでは病態が再現できないために研究が進んでいなかったが、インスリン分泌不全を呈する病態の解明を目指して研究をすすめているところである。インスリン分泌不全の機序が解明されれば、新たな糖尿病治療薬の開発にも繋がるのではないかと期待している。一方iPS細胞から膵島の誘導研究は世界的に激しい競争が繰り広げられている分野で、我々は小型霊長類であるマーモセットに糖尿病モデルを作製しており、誘導した膵島細胞を移植して血糖降下作用を検証しようとしている段階にある。

FAX: 03-3207-1038

MAIL : web-master@hosp.ncgm.go.jp

11月5日 メディアセミナー 申込書
※受付後、参加登録証をお送りします

会社名	
所属部署	
参加者名	
連絡先 メール 電話 FAX	
撮影 カメラ	あり ・ なし

事前質問